

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

オオタバコガの発生状況と防除対策（技術情報10号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

記

1 オオタバコガの発生状況

- (1) 合志町（生産環境研究所）のフェロモントラップの誘殺数は、9月6半旬以降増加しており、平成14年につぐ過去2番目（平成8年から調査開始）に多い誘殺数になっている（表1）。
- (2) 合志町（農業研究センター）の平均気温とオオタバコガ卵の有効積算温度から計算すると、10月1半旬以降から幼虫がふ化し始め、2半旬以降防除対象となる若齢幼虫の発生が多くなると考えられる。
- (2) 福岡管区气象台が9月30日に発表した九州北部地方の1ヶ月予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並の予想である。このため、高温による発育促進が考えられ、老齢幼虫になるのが早くなると予想される。

2 防除対策

- (1) 露地やこれまでビニールおよび防虫ネットを被覆していなかった施設では、ほ場内で若齢幼虫の発生が多くなると考えられるため、被覆後もほ場をよく見回り、若齢幼虫の発生には十分注意する。
- (2) オオタバコガは老齢幼虫になると果実や蕾に食い入り、薬剤を散布しても効きにくくなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- (3) 施設栽培では施設開口部を防虫ネット（4mm目以下、コナジラミ類対策も兼ねる場合は0.8mm目以下）で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- (4) 黄色蛍光灯を設置しているほ場でも、ほ場の隅まで光がとどいていない場合は成虫が侵入していることがあるので注意する。
- (5) 11月末までは成虫がほ場へ飛来するため、しばらくは病害虫防除所のホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>）上のフェロモントラップ誘殺状況を参考にしながら、ほ場での害虫の発生に注意する。
- (6) 果菜類では、幼虫が果実の中に食い入っている場合があるため、被害果は早期に摘果、処分する。また、摘芯、摘果した腋芽や花蕾等は、本害虫の卵や幼虫がついている場合もあるため、ほ場内や周辺に放置しない。
- (7) 農薬の使用にあたっては、必ず農薬ごとに定められた使用基準を守り、安全な農産物の生産に努める。

表1. フェロモントラップの誘殺数（合志町）

	9月4半旬	9月5半旬	9月6半旬	10月1半旬
平成17年	47	45	75	125
平年	21.4	15.3	35.2	49.8
平成14年	5	0	162	209
平成13年	46	41	63	120

問い合わせ先
熊本県農業研究センター
生産環境研究所病害虫研究室
予察指導係(病害虫防除所)
担当： 前田・古賀
TEL096-248-6490
FAX096-248-6493